

▼俳句四季大賞

- 第1回 (平13) 吉野義子 『流水』
- 第2回 (平14) 岩淵喜代子 『螢袋に灯をともす』
- 第3回 (平15) 後藤比奈夫 『沙羅紅葉』
- 第4回 (平16) 山上樹実雄 『四時抄』
- 第5回 (平17) 矢島渚男 『延年』
- 第6回 (平18) 小原啄葉 『永日』
- 第7回 (平19) 友岡子郷 『耶々』
- 第8回 (平20) 文挾夫佐恵 『雲の賦』
- 第9回 (平21) 今井千鶴子 『青愛鷹』
- 第10回 (平22) 綾部仁喜 『過ぎゆく』
- 第11回 (平24) 神蔵 器 『沈黙』
- 第12回 (平25) 豊田都峰 『水輪』
- 第13回 (平26) 宮坂静生 『土の唄』
- 第14回 (平27) 照井 翠 『雛土蔵』
- 第15回 (平28) 柿本多映 『龍宮』
- 第16回 (平29) 茨木和生 『仮生』
- 第17回 (平30) 有馬朗人 『葉喰』

▼俳句四季特別賞

- 第1回 (平24) 渡辺誠一郎 『地祇(ちぎ)』
- 第2回 (平25) 石牟礼道子 『石牟礼道子全句集 泣きなが原』
- 第3回 (平27) 西村和子 『椅子ひとつ』
- 第4回 (平29) 高橋睦郎 『十年』
- 第5回 (平30) 山田貴世 『黙示』
- 第6回 (平30) 秋尾 敏 『俳句の底力』

▼俳句四季新人賞

- 第1回 (平25) 内山かおる 『冬の虫』
- 第2回 (平26) 鶴岡加苗 『ものいふ道具』
- 第3回 (平27) 宇志やまと 『指』
- 第4回 (平28) 斎藤真里子 『絵本開く』
- 第5回 (平29) 涼野海音 『明日は雪』
- 第6回 (平30) 小山玄黙 『天へ発つ(てんへたつ)』
- 板倉ケンタ 『膝に(ひざに)一花(いっか)』
- 『胸もと』

▼俳句四季新人奨励賞

- 第1回 (平26) 安里琉太 『海光』
- 第2回 (平27) 根木夏実 『月光の味』
- 第3回 (平29) 鈴木加成太 『交信』

▼俳句四季全国大会大賞

- 第1回 (平13) 山之上友江 笑ひながら少女攫はるコスモス野
- 第2回 (平14) 大橋一青 垂直は禱りのすがた瀧凍る
- 第3回 (平15) 高田菲路 引く鶴の月山に来て高みけり
- 第4回 (平16) 出口裕興 煮凝りやふるさとの海荒るるころ
- 第5回 (平17) 矢野信幸 死に近き人を離れず冬の蠅
- 第6回 (平18) 日下野仁美 はるかより母の加はる手毬唄
- 第7回 (平19) 今井峰月 千枚の冬田となりて風ばかり
- 第8回 (平20) 倉富あきを 炉話や山より大き猪が出て
- 第9回 (平21) 手操直美 白鳥の眠りの中を雪降り
- 第10回 (平22) 伊藤柳香 歌垣の山に大きな春の月
- 第11回 (平23) 佐藤興中 雪搔いて五体たそがれまいとする
- 第12回 (平24) 黒木 豊 大阿蘇の風を捉へて凧揚がる
- 第13回 (平25) 奥原尋嘉 声高に風を読み合ふ野焼かな
- 第14回 (平26) 熊川暁子 一列はいのちの高さ鳥帰る
- 第15回 (平27) 安居雅寿 源流は雲の上なり代田掻く
- 第16回 (平28) 岩田芳雄 ぶつかって色のはみ出す喧嘩独楽
- 第17回 (平29) 能美昌二郎 寒鯉の動いて水の動かざる
- 第18回 (平30) 松家京子 無辺とは赤子のつかむ春の空